

### 統計調査員として長年のご功労 統計事務功績者表彰伝達式

1月29日(金)、滋賀県庁で平成27年度滋賀県統計事務功績者表彰伝達式が開催され、高島市で統計調査員として長年ご活躍いただいている方々が表彰や感謝状を授与されました。(情報統計課)

- 《平成27年度統計功績者表彰(総務大臣表彰)》  
桑原 智子さん
- 《2015年農林業センサス功績者農林水産大臣表彰》  
谷 貞子さん
- 《平成27年度滋賀県統計協会統計事務功績者表彰》  
近藤 和子さん 中谷 恵子さん 山本 重夫さん  
中谷 宗吉さん 西田 義明さん
- 《平成27年度経済産業省所管統計調査功労統計調査員感謝状》  
澤邊 武三さん 宮本 正雄さん



表彰や感謝状を受けた調査員の皆さん

### 安曇川中学校出身の大岡くん 甲子園出場決定!



3月20日(日)から行われる第88回選抜高等学校野球大会に安曇川中学校出身の大岡くん(2年)の所属する東海大付属甲府高校が出場されます。甲子園での活躍が期待されます。(市民スポーツ課)

### 今、子どもには不便さの体験が必要 子どもをネットの危険から守ろう!

1月17日(日)、高島市青少年育成市民会議と高島市PTA連絡協議会との共催で、NIT株式会社の篠原嘉一氏を招いて「ネットの危険から高島の子どもの安全を守ろう!」研修会を開催し、144人の方が参加されました。スマートフォンなどの機器は大変便利ですが、使い方を誤って人を傷つけたり、危険な目にあったり、知らないうちに事件の加害者にもなっている現状をお話いただきました。また、実際に機器を使い、個人情報の保護や、被害に合わないための設定を学びました。最後に、「便利なものに囲まれた今の社会で、子どもたちに必要なのは“不便さ体験”である」と話されました。参加者からは、「子どもとスマートフォンについて話をしたい」、「もっと敏感に対応していきたい」との感想が寄せられ、子どもと話し合うきっかけとなる研修会となりました。(青少年課)



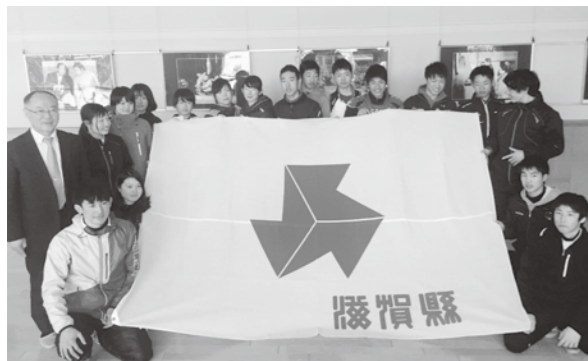
### 安曇川中学校出身の澤村さん 全国都道府県対抗女子駅伝出場



1月17日(日)、京都市で皇后杯第34回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会が行われました。この大会には、滋賀県代表として、安曇川中学校出身の澤村真央さん(現比叡山高2年)が選ばれ、1区代表として都大路を力走されました。なお、滋賀県は36位でした。(市民スポーツ課)

### 市内高校生 全国高校スキー大会出場

2月4日(木)から8日(月)まで青森県で行われた平成27年度全国高等学校総合体育大会、第65回全国高等学校スキー大会に滋賀県大会を勝ち抜いた次の選手が出場され、健闘されました。(市民スポーツ課)



【個人の部】

出場選手	高校名	学年	出場種目
古谷 俊也	高島高校	3	男子ジャイアント・スラローム
江黒 凧沙	高島高校	2	女子ジャイアント・スラローム 女子スラローム
福田 樹	高島高校	2	男子クロスカントリー-10kmクラシカル 男子クロスカントリー-10kmフリー
小林 大晋	高島高校	1	男子クロスカントリー-10kmクラシカル 男子クロスカントリー-10kmフリー
齊藤 颯	高島高校	2	男子クロスカントリー-10kmクラシカル 男子クロスカントリー-10kmフリー
中尾 應伴	安曇川高校	1	男子クロスカントリー-10kmクラシカル 男子クロスカントリー-10kmフリー
森 洋貴	安曇川高校	2	男子クロスカントリー-10kmクラシカル 男子クロスカントリー-10kmフリー
太田 小雪	高島高校	1	女子クロスカントリー-5kmクラシカル 女子クロスカントリー-5kmフリー
中原さくら	安曇川高校	3	女子クロスカントリー-5kmクラシカル 女子クロスカントリー-5kmフリー
山田 瑞季	高島高校	3	女子クロスカントリー-5kmクラシカル 女子クロスカントリー-5kmフリー

【男子リレー】

出場選手	高校名
福田 樹、齊藤 颯、小林 大晋、前川 翔	高島高校

### 第28回全日本マーチングコンテスト 金賞受賞 マキノ中出身の藤原さん

11月22日(日)に大阪城ホールで開催された第28回全日本マーチングコンテストにマキノ中学校出身の藤原梨彩さんが関西代表の私立京都橘高等学校・吹奏楽部の一員として出場され見事に金賞を受賞されました。おめでとうございます。藤原さんは「毎日の練習は厳しかったのですが、何とか乗り越え、全国大会で金賞を受賞できました。これまで支えていただいた多くの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。」と喜びをかみしめておられました。(社会教育課)



### 火災から文化財を守ろう! 文化財防火デー 興聖寺で消防訓練

1月24日(日)、文化財防火デーにあわせて朽木の興聖寺(旧秀隣寺庭園は国の名勝・本尊は重要文化財・本堂は市の有形文化財)で消防訓練を行いました。訓練は「興聖寺付近の林野が炎上しているのを付近の住民が発見、本堂まで延焼するおそれがある」という想定のもとで実施。重要な文化財の運び出し、消火器やバケツリレーによる消火訓練のほか、自警団による可搬ポンプを用いた放水訓練、消防団による中継放水訓練などが行われました。大寒波の影響で非常に寒い中、参加者の皆さんは真剣な表情で訓練に取り組まれました。(文化財課)





### 協力隊のさいご記

【さいご】歳時 催事 細事 etc...  
移るいや催し、日々感じる細々したことを地域おこし協力隊の感性で徒然伝えていくコーナーです。

#### 「美しくも誇らしくもない故郷」

原はめったに故郷に帰りません。そのくせ大学時代に通った居酒屋には今も顔をします。大学の近くで、学生が多い。中には泣きながらサークルのことを語っている人もいます。それを見て「熱いねえ一銭にもならんこと」と呟くと大将が「原君も昔ようやった」と余計な一言。これは原が会社員のときの話。この一件を機に原は母校や旧友との酒の席に行くようになりました。思い出に浸りたいわけではありません。目的は、今の自分を知るため。変わらないかつての居場所に行くと、かつてとは違う何かを見つけることができます。自分の中に。それは今の自分を知ることだと考えています。だから変わらないかつての居場所は大切にしています。わが故郷も美しくなくてもいい。変わらずにいてほしい。また今の自分を知るために帰るときがあるからです。

### 湖西中で深溝響信社が授業 伝統音楽 雅楽を体験

2月9日(火)、湖西中学校の1年生113人を対象に雅楽の授業が行われました。この授業は深溝響信社の石田哲 楽長らメンバー6人が講師となり行うもので16年前から続いています。はじめにメンバーにより「越天楽」が演奏され、雅楽で使う楽器などの説明をされました。その後、生徒らは実際に楽器を体験、興味津々で伝統音楽に触れました。生徒から雅楽をはじめた理由を尋ねられ、メンバーは「途切れていた深溝の雅楽の伝統をなんとか復活させたいという思いから。みんなも何事にも前向きに取り組んでほしい。」と話されました。現在、後継者を募集しているとのこと。 (秘書広報課)



### 健闘 安曇川高校 2015年建築甲子園ベスト8

高校生を対象に行われる、学生自らまちづくりや建築設計のアイデアを競い合う2015年第6回「高校生の建築甲子園」で、滋賀県立安曇川高校総合学科建築デザイン系列2年生の田阪広大さんと石田雄己さんの応募作品「私たちの町の通学路」がベスト8に選ばれました。「空き家を活かす」をサブテーマに作られた今回の作品は、駅から高校までの通学路にある空き家を活用し、地域に埋もれた伝統産業や祭りを通して地域を盛り上げる役割を担っています。受賞に対し田阪さんと石田さんは、「時間をかけたので悔しい面もあるけど、やっぱりうれしい」と語られました。(秘書広報課)



### 安曇川高校総合学科3年生 地元産品を使った商品販売



梅花漬クッキーを勧める生徒

1月16日(土)、道の駅藤樹の里あどがわで、安曇川高校3年生26人が自分たちで開発した6つの商品の販売実習を行いました。この取り組みは、総合学科3年生の課題研究授業の一環で、販売するメニューは、生徒が地元企業の協力を受けて商品化したもの。市内で生産された農畜産物等を加工した「あどベリーまふいん」や「とんちゃんサラダうどん」など魅力的なスイーツやメニューが並びました。販売所は、珍しい味を楽しもうと集まった大勢のお客でにぎわいました。(秘書広報課)

## 高島の食と人にまつわる物語

市では高島のライフスタイルを広く紹介するプロジェクトとして、高校生も含む市民有志の方に、高島の食と人取材し、自らライターやカメラマンとなってウェブサイトで紹介していただく「高島の食と人」3つの〇〇というプロジェクトを行っています。

これまでに、高島の秋と冬の食や、それにまつわる人々の暮らしの取材を行い、畑地区で穫れた大根や赤かぶを使って漬物を作られている澤井さんのお話や、初めての蕎麦打ちに挑戦する元気な高島高校生4人組のお話、また京都から移住され、野菜はもとより娯楽も自分たちで自給自足しようと、ご家族でファミリーバンドを楽しまれる藤村家のお話などを専用のWebサイトに紹介しています。今年度も春、夏と取材を重ね、来年度には高島の四季とその中で営

まれるライフスタイルを発信するガイドブックを制作する予定です。この取り組みでは、発信された内容が外部の人にとって魅力的に映るかばかりでなく、高校生を含む市民の皆さんが自ら取材や発信を行うことで、自分たちの地域を知り、そこに新しい価値を見出し、ひいては誇りを感じていくところに、高島ブランドが形づくられる期待を感じています。

とりわけ、「食」は人々が日常生活を送る上での根源的な営みであり喜びです。私たちにあって、日常にありふれた食のまわりにも、暮らしへのこだわりや、誰かを思う気持ち、一人ひとりの物語があります。皆さんもぜひ、専用Webサイト「高島の食と人」を検索ください。



福井正明

### 市長雑記

### びわ湖高島ブランド戦略推進事業 第2回 ディスカバー高島会議を開催

高島市観光物産プラザにおいて、第2回ディスカバー高島会議を開催しました。ゲストには、地域の魅力を国内外に発信されているディスカバージャパン総括編集長の高橋氏と元デンマーク大使館広報員のイェンス・イェンセン氏をお迎えし、昨秋から実施している市民の方々が取材を通じて自らのまちの再発見を行うプロジェクト「高島の食と人」の制作発表と講評会を行いました。当日は、約100名の方々にご来場いただき、暮らしの豊かさや、数多くの誇れる魅力が高島にあることを再認識することができました。今年度に取材した内容は、専用ホームページに掲載しています。「高島の食と人」で検索してください。 ※「高島の食と人」について、詳しくは広報たかしま1月号をご覧ください。(企画調整課)



ディスカバー高島会議



講評会などに先立ち、ゲストと高島高校の学生たちが意見交換を行いました。